

集合教育の前後における器具の取り扱いの変化と経済効果

感染対策室 感染対策専任 龍口さだ子

Key word : 器具の消毒 リスク別対策 経済効果

はじめに

洗浄・消毒・滅菌は感染予防対策の原点であり、日常の診療において医療の安全のための重要な技術として位置づけられている。更に、近年、診療域において、根拠に基づく感染予防対策の一つに、リスク別感染予防対策が世界的に標準予防対策として実施されている。このことは、使用後の器具類の取り扱い等を含め、感染予防対策はリスクを考え、リスクに応じた対策をとることである。しかし現状として当院の各部署における使用後の器具類の取り扱い方に違いがあり、このこと自体、根拠に基づかない対策といえる。そこで、各部署の取り扱いの現状を調査した。その後、全部署の看護師・看護助手を対象に、「看護師の意識統一をめざして」をテーマに、根拠に基づく感染予防対策の一つである感染リスクとその対策について集合教育を行った。その結果、器具の取り扱いに変化があり、感染予防対策は根拠に基づき対策を講じることで、経済的効果があることが解かった。そこで、集合教育前後における器具の取り扱いの変化と、変化がもたらす経済効果について比較検討したので報告する。

I. 目的

根拠に基づく感染予防対策の一つであるリスク別対策について、集合教育がもたらす現状の変化と経済効果について検討する。

II. 研究方法と調査期間

集合教育前における使用後の器具類の各部署を現状調査 2004 年 5 月 6・7 日

「看護師の意識統一をめざして」をテーマに各部署の集合教育実施 2004 年 5 月 26 日～6 月 23 日

集合教育後における使用後の器具類の各部署を現状調査 2004 年 7 月 12・13 日

III. 結果

集合教育前の各部署で使用されていた器具類は、根拠に基づくリスク別対策とは異なりさまざまな取り扱い対応していた。低リスクのアイスノンや体温計が消毒用エタノールの浸漬や消毒。更に、リネンや薬杯のステラット（低温プラズマ）滅菌の実施。外来、中央部門の呼吸器外回路と滅菌後使用する器具の一次洗浄と称しディスオーバー浸漬。又、最小リスク、床や環境への清拭・清掃に消毒用ヘキサックアルコールや消毒用エタノールの使用などが見られた。

集合教育「看護師の意識統一を目指して」を実施。講義内容は、感染予防対策における根拠に基づくリスク別対策に加え、感染予防対策上の見直しとして、配膳時のマスクの必要性。更に、適切な感染防御具としてのプラスチックエプロンやサージカルマスクについて、また、酸素吸入器時の滅菌水使用等についての内容含み実施した。

教育後の使用後の器具取り扱いへの変化は、消毒剤による器具の浸漬、外来、中央部門の一次消毒ディスオーバーの一部使用中止、また、リネンの滅菌、ステラッド滅菌物個数減量となる。又、配膳時のマスクの廃止、酸素用滅菌水の一部中止、マスク、プラスチックエプロンの製品変更へとつながった。

経済効果は、表 1 が示すように、感染防御具等における配膳時使用していたマスクの廃止による削減コストは 368,550 円・血管造影室のスリッパ購入費 20,000 円・その他、サージカルマス

クの製品変更により 1,015,484 円とプラスチックエプロンの製品変更 68,166 円である。防御具等における削減コストの合計は 1,472,200 を示した。

器具類消毒のステラッド滅菌の減量による年間経費は、約 1,440,000 円の削減・滅菌器具等の一次消毒ディスオーバー費 236,800 円。処置方法の変更による酸素用滅菌水アクアパックの一部使用中止がおよぼすコスト削減 3,084,105 円であった。その他、手洗いグリンス・環境消毒用消毒剤・吸痰時の摂子消毒用消毒剤と吸痰時滅菌蒸留水の減量を認めた。年間コスト削減は合計約 6,405,029 円であった。

IV 考察

慣習的に行われている根拠に乏しい感染予防対策は有効でないばかりか、業務が増えることで必要な対策がおろそかになる可能性も考えられる。現状の感染予防対策の根拠について「看護師の意識統一をめざして」をテーマに学習を行い、集合教育がもたらす変化は少なからず意義深いものがあつた。組織全体が情報を共有することで感染予防対策の変化が及ぼす経済効果は非常に高いことが言えた。

教育効果により、感染予防対策は根拠に基づく確かな情報の発信によって組織が変わることが言える。根拠の基づく正しい情報を共有する仲間作りも大切であることがいえる。

感染予防対策の経済効果の検討は、患者の安全・医療従事者の安全・環境への配慮を考え、今後も進めるべき重要な課題である。更に、感染予防対策の経済効果には、マスク等は選択の必須条件に体液を通さないこと、ノースブリッジの長は患者を守る意味からも飛沫を飛ばさない・医療従事者を守る意味で飛沫を吸わないなどのリスクマネジメントの視点でも選択することが重要といえる。ICN (Infection Control Nurse)としての責任を感じる。今後も効果の不明瞭な対策の整理の管理に取り組みたいと考える。これからも、継続して根拠に基づく対策の

見直しが第 1 の経済効果であるといえる。

まとめ

根拠に基づく情報の共有が組織の変化につながり、第一の経済効果をもたらす。

感染予防対策の経済効果には、患者の安全・医療従事者の安全・環境にやさしい等のリスクマネジメントの視点で選択することが重要といえる。

参考文献

龍口さだ子他：EBM に基づく感染予防対策感染予防対策における合理的手順と実践，診療と新薬，41（8）：40-70，2004.

国立病院大阪医療センター感染対策チーム：EBM に基づく院内感染予防対策 Q&A，南江堂，2003.

表1 感染対策の再考と経済効果

	項目	平成15年度 消費量と価格	平成16年度 廃止又は減量や新 規採用品年間予定 消費量における年 間差額	年間コスト 削減
感染 防御具	配膳時の紙マスク廃止	368,550	0	368,550
	サージカルマスク(ゴムタイプ) 変更	1,073,883	367,353	706,530
	サージカルマスク(紐タイプ) 変更	878,726	569,772	308,954
	プラスチックエプロンの変更	125,685	57,519	68,166
	血管造影室のスリッパ購入費	20,000	0	20,000
器具等 の消毒	ステラット滅菌量の減量 1ケ 単価約 200 円	日平均約 102 ケ/日 4,896,000	日平均約 72ケ/日 前年度比約平均 30 ケ減/日 (20日× 12ヶ月) 3,456,000	1,440,000
	外来部門のデスオーバー一次消 毒の一部廃止	390,400	153,600	236,800
	消毒エタノールによる器具の浸 漬廃止			
	吸痰時の拭子浸漬用消毒剤の廃 止	66,960	6,480	60,480
	リネン類の滅菌消毒廃止			
処置の 変更	アクアパックの一部使用中止 吸痰時の滅菌水の使用中止	6,058,181	2,974,076	3,084,105
環境消 毒	消毒エタノールの使用中止 ヒビテンアルコールの使用廃止	47,112	7,488	39,624
感染予 防対策	グリンスの一部中止	94,500	22,680	71,820
合計		14,019,997	7,614,968	6,405,029